

平成25年12月9日
内閣官房情報セキュリティセンター（NISC）

重要インフラにおける分野横断的演習の実施概要について～【CIIREX 2013(シーレックス 2013) *1]～

内閣官房情報セキュリティセンターは、重要インフラ事業者を始めとする61組織の参加を得て、本年度で8回目となる分野横断的演習を実施しました。

ITシステムを脅かす複数の予兆が検知される中、大規模なIT障害が発生し複数分野のサービスに影響する事態を想定した演習を通じて、各参加者ともにITシステムを脅かす予兆を捉える平常時の活動の確立、部門間や経営層を含む情報共有体制の構築、事業継続計画（BCP）等の策定・改訂に向けた、多くの気づきに結びつく成果が得られました。

1. 実施日時・場所

平成25年12月9日（月）12：00～18：30
株式会社三菱総合研究所 会議室（一部自職場）

2. 参加機関等

【重要インフラ事業者等】10分野（情報通信、金融、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流）の38機関

【セプター】10分野の15セプター*2（通信、ケーブルテレビ、放送、銀行等、証券、生保、損保、航空、鉄道、電力、ガス、地方公共団体、医療、水道、物流）

【政府機関】重要インフラ所管省庁（金融庁、総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省）、NISC

等

合計 61組織212名が参加（内3組織10名が自職場参加）

*1：「CIIREX」は「重要インフラにおける分野横断的演習」の略称。以下の英文の頭文字。
CIIREX 2013：Critical Infrastructure Incident Response Exercise 2013

*2：「セプター（CEPTOAR）」とは、各重要インフラ分野で整備されている情報共有体制のこと。情報共有・分析機能を示す英文の頭文字。

CEPTOAR：Capability for Engineering of Protection, Technical Operation, Analysis and Response

3. 演習内容

本年度は、複数の情報セキュリティインシデント予兆が検知される中、大規模な情報セキュリティインシデントが発生し、複数分野においてサービスへの影響が発生することにより、一部分野におけるサービスへの影響が他分野にも波及し、多くの重要インフラ事業者等において、インシデントの防止や被害最小化、あるいは事業継続のための原因調査・復旧対応が迫られる事態を想定した演習を実施しました。

演習後の意見交換会において、

- ①見過ごしがちであるインシデントの予兆に対して、日頃より対応できるよう留意すること、
- ②複数の業務システムが一斉にダウンすることを想定し、復旧の優先順位を決めておくこと、
- ③インシデントの影響範囲に応じて、取るべき対策や実施する体制をあらかじめ検討しておくこと、
- ④自社において経験の無い大きなインシデントが発生した場合においても、他社の対応を参考に自社の取組みに反映し、適切な対応を行うこと、

等が重要であるとの意見が参加機関から出されました。

4. 今後の展開

各重要インフラ事業者等においては、演習を通じて得られた BCP 等における気づきを自社や各分野内で共有し、情報セキュリティ対策の向上等の取組みに活用されることが期待されます。

また、内閣官房情報セキュリティセンターにおいては、分野をまたがる有効な気づき等を整理し、その知見を各分野へ普及展開することで、重要インフラ防護対策の向上を図ってまいります。

【問い合わせ先】

内閣官房情報セキュリティセンター

内閣参事官 三浦 知雄

参事官補佐 渡部 康一

電話：03-3581-8903